

平成29年度 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 萩ヶ丘 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成29年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語，算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1)義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2)学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3)そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語，算数）

主として「知識」に関する問題（A）	主として「活用」に関する問題（B）
<ul style="list-style-type: none">・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	<ul style="list-style-type: none">・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

(2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲，学習方法，学習環境，生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査（国語A・B，算数A・B）の結果

本年度の結果	国語A		国語B		算数A		算数B	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	11.0	74	5.1	57	11.6	77	4.9	44
全国	11.2	75	5.2	58	11.8	79	5.1	46

(2) 本校の学力調査結果の分析

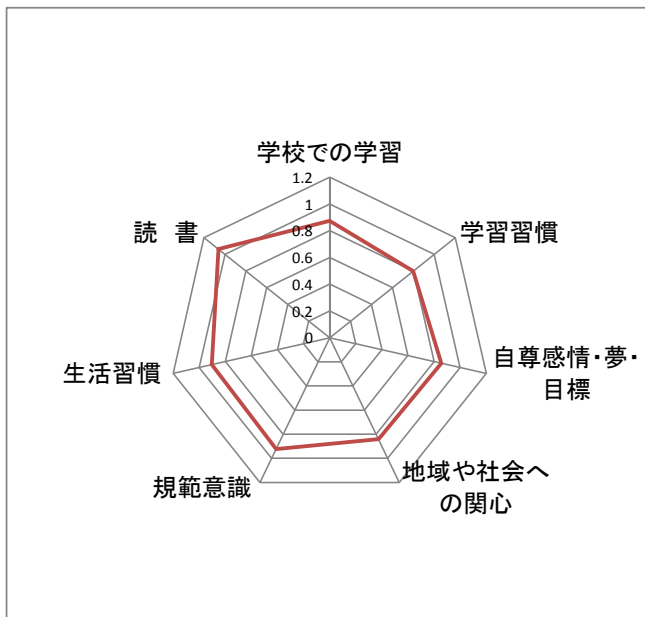
国語A	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> 全体的には、全国平均正答率を約3ポイント下回っていたが、漢字の知識理解の力についてはついてきている。 相手や目的に応じて書く力を問う問題に課題があり、書くことを習慣化する必要がある。 	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	<ul style="list-style-type: none"> 漢字を書く、読むの問題は、比較的正答率が比較的高かった。 俳句の情景について考えたこととして適切なものを選択する問題は正答率が高かった。 	
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> 手紙の後付けに必要な日付、署名、宛て名のそれぞれの位置について、適切なものを選択する問題については、正答率が低かった。 	

国語B	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> 全体的には、全国平均正答率を約2ポイント下回っていたが、条件に合わせて書いたり、発言の意図を考えながら話し合いを聞く力の基礎ができてきた。さらにそれらを生活に活用する力をつける必要がある。 昨年度より全国平均正答率が上昇していた。 目的や意図に応じ、必要な内容を整理して書く力をつける取組が必要である。 	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	<ul style="list-style-type: none"> 登場人物の相互関係と場面についての描写を捉え、当てはまる言葉として適切なものを選択する問題の正答率が高かった。 	
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> 課題についてスピーチメモとグループの話し合いで出された意見を基に書く問題について、正答率が低かった。 同じ考えの人を説得するために引用する文章を本文の一部から選択する問題の正答率が低かった。 	

算数A	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> 全体的に全国平均正答率を約5ポイント下回っており、特に図形についての問題の正答率が低かった。 無解答率が低かった。 	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な問題場面において、乗法で表すことができる二つの数量の関係を表す問題の正答率が高かった。 商を分数で表す問題や最小公倍数を求める問題、3桁×2桁の計算の正答率が高かった。 	
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> 平行四辺形の面積の半分の面積である三角形を正しく選ぶ問題の正答率が低かった。 二次元表の合計欄に入る数を書く問題の正答率が低かった。 	

算数B	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> 全体的には、全国平均正答率を約4ポイント下回っていた。 数量関係と図形に関する問題について課題がある。グラフや数直線、作図などを活用して説明できる力をつける必要がある。 式や求め方について、自分の考えを必ず記述することを習慣化する必要がある。 	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	<ul style="list-style-type: none"> カードの差が分かっている場合の、2桁のひき算の式と答えを書く問題の正答率が高かった。 示された考えを基に、54-45の場合で残る部分を図に表す問題の正答率が高かった。 	
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> 身近なものに置き換えた基準値と割合をもとに、比較量を判断し、その判断の理由を記述する問題の正答率が低かった。 割合を比較するという目的に適したグラフを選ぶ問題の正答率が低かった。 	

4. 学校での学習活動，家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

- ・新聞を読んでいる児童は、全国を上回った。しかし、将来外国へ留学したり、国際的な仕事に就きたいと考える児童は、全国をかなり下回った。
- ・人の役に立つ人間になりたいと考える児童が全国を下回った。
- ・学習塾で勉強をしている児童が全国を上回った。また、読書時間も全国を上回っていた。しかし、学校の宿題を「している」と答えた児童は、全国を下回った。また、学校の授業の予習、復習を「している」「どちらかといえばしている」と答えた児童も全国を下回った。
- ・普段（月曜日から金曜日）メディア（テレビ・ビデオ・DVDなど）の接触時間において、2時間以上と答えた児童が全国を上回った。ゲームをする時間も全国をかなり上回っていた。また、携帯電話やスマートフォンの使い方において、「あまりきまりを守っていない」と答えた児童も全国をかなり上回った。
- ・「自分には、よいところがある」と思っている子どもが、全国よりかなり少なかった。「物事を最後までやり遂げてうれしかったことがある」と答えた児童も全国を下回った。何事にも挑戦し、課題を乗り越える機会を積極的にもつ必要がある。
- ・授業中に友達と話し合う活動を「よく行った」と答えた児童が全国を上回った。
- ・「国語の勉強が好き」と答えた児童が全国を下回った。また、「国語の勉強を大切に」と考える児童も全国を下回った。さらに、「国語が将来、役に立つ」と考える児童も全国をかなり下回った。

5. 調査結果から明らかになった，課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組（全校で・学年で・学級で）

- ・国語科の「話すこと・聞くこと」領域は、全国平均正答率を下回っていた。本年度も国語科教育の「話すこと・聞くこと」単元を通しての研究を進める。具体的には、単元構成の工夫をしたり、子どもたちの思考を視覚化する授業展開を工夫したりする。また、第1学年から第6学年までを系統的に捉え、各学年の段階で身に付けておくべき力を確実に定着できるようにする。そのために学力向上推進担当教員と連携しながら、日々の授業の質を向上させる。年3回推進担当教員のモデル授業を職員で研修したり、9月20日、10月11日、11月22日に授業を伴った主題研究を設定し、互いの考えや立場などを尊重しながら互いに協力し合って話し合える授業の在り方を全職員で研修する。
- ・言語環境の充実に努め、言葉を豊かに活用しながら生活をする子どもたちの育成を図る。
- ・月曜日は音読、火曜日は計算、水曜日は読書、木曜日は国語、金曜日は応用というように、朝の学習で取り組む内容を学校全体で統一し、確実に実施する。特に計算や国語の時間では、基礎学力の定着を図る。また、音読は、全校放送で一斉音読に取り組む。音読の楽しさを味わわせるとともに、みんなで一つの目標の向かって取り組む楽しさも味わわせたい。応用は、水曜日に家庭学習として取り組んだ問題（おもに思考判断の力を有するもの）を教員の解説のもと理解していく時間とする。
- ・読書への関心を更に深めるために、図書委員会を中心に校内読書週間を設定する。読書週間中は朝の学習を全校10分間読書としたり、学校図書館職員によるブックトーク、図書委員による絵本の読み聞かせや本の紹介、図書クイズの時間を設定する。さらに、全児童で読書感想画に取り組み、読書意欲を高める。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・中学校区全体が家庭学習に取り組めるために、大里東小学校と戸ノ上中学校と連携して「スタディーウィーク」を年間5回設定する。（3回は実施済み：第4回目11/17～11/23 第5回目2/16～2/22の予定）取組の様子や結果は学校便りで配信し、保護者への家庭学習に対する関心を少しでも高めてもらう。
- ・毎朝8時26分から「荻小ストレッチタイム」とし、保健委員会作成のCDを全校放送する。静かな音楽とともにストレッチをすることで体をほぐし、姿勢保持を意識させるようにする。体育委員会とも協力し、児童同士の気付きや声かけから生活態度を見直すきっかけにする。
- ・長期の休みに入る前は、「荻ヶ丘小学校生活のきまり」を配布し、長期休暇期間中の生活の仕方を共通理解できるようにする。